

# Istanbul Weekly vol.3-no.29

## イスタンブール ウィークリー

発行：在イスタンブール日本国総領事館 発行日：2014年9月5日（金）

### — 今週のポイント —

- 政治**：第 62 代新内閣の閣僚名簿発表。  
【トルコから見たシリア情勢】：150m先の隣国は「イスラーム国」。
- 軍事**：参謀総長、首相と和平交渉について会談。  
PKK によるトルコの ISIL 襲撃は政府の脆弱性を現している。
- 経済**：ババジャン副首相が経済担当として留任。  
自動車販売台数減少。
- 治安**：汚職事件容疑者は不起訴。他方、警察官 32 名は国家転覆企図容疑で身柄拘束さる。  
警察官が飛び降りようとする男性を説得する姿を自ら写真撮影。
- 社会**：ボスポラス海峡、エミルガン地区で 8 メートル幅が狭まる。  
クンカプの魚市場で魚の価格が下がる。

### 政治

#### 【新大統領の動き】

#### ●大統領顧問

エルドアン大統領が首相時代から長期間ともに働いてきたチームメンバーらの大統領府における各々の任務が明らかになった。(9月2日付 HT 紙 16 面)

役職・内容等	日本語表記
大統領府官房長(大使)	ハサン・ドアン
大統領府副事務総長(大使、外国訪問担当)	イブラヒム・カルン
顧問(スピーチ原稿)	アイドゥン・ウナル
顧問(報道)	リュトウフツラー・ギョクタシュ
顧問(要望メモ、スピーチ原稿、面会調整)	ムスタファ・ヴァランク
顧問(学者出身)	サヴァシュ・シャファック・バルクテン
顧問(以前首相府にて不動産管理担当)	シェノール・カザンジュ
顧問(経済)	イイート・ブルット
私設顧問(東部ディヤルバクル出身、ヒズボラ・PKK等のテロ組織の仲介役経験ある模様)	ムジャヒット・アルスラン

#### ●第 62 代新内閣の閣僚名簿

第62代内閣(ダーヴトオール内閣)閣僚名簿		
役職	日本語表記	備考
首相	アフメット・ダーヴトオール	移動
副首相	ビュレント・アルンチ	留任
副首相	アリ・ババジャン	留任
副首相	ヤルチュン・アクトアン	新任
副首相	ヌーマン・クルトウルムシュ	新任
法相	ベキル・ボズダー	留任
家族・社会政策相	アイシヌル・イスラム	留任
EU相	ヴォルカン・ボズクル	新任
科学産業技術相	フィクリ・ウシユク	留任
労働社会保障相	ファルク・チェリツキ	留任
環境都市相	イリス・キョルルジェ	留任
外相	メヴリュト・チャヴシヨール	移動
経済相	ニハト・ゼイベキジ	留任
エネルギー・天然資源相	タネル・ユルドゥス	留任
青年スポーツ相	アーキフ・チャータイ・クルチ	留任
食糧・農業・畜産相	メフメット・メフティ・エケル	留任
税関・貿易相	ヌレティン・ジャンクリ	新任
内相	エフカン・アラ	留任
開発相	ジェヴデット・ユルマス	留任
文化観光相	オメル・チェリツキ	留任
財務相	メフメット・シムシエツキ	留任
国家教育相	ナゼ・アヴシユ	留任
国防相	イスマット・ユルマス	留任
森林・水相	ヴェイセル・エロール	留任
保健相	メフメット・ムエツジンオール	留任
運輸通信相	リュトウフィ・エルヴァン	留任

※掲載内容は、トルコの新聞報道をまとめたものです。

1日、ダーヴトオール首相（与党 AKP 党首）は、大統領府においてエルドアン大統領に提出した第 62 代内閣の閣僚名簿を発表。6日（土）に国会信任投票が実施される予定。第 58 代ギュル内閣時は国会において 346 票、第 59 代エルドアン内閣は 350 票、第 60 代同内閣は 337 票、第 61 代同内閣は 322 票の賛成票を得ていた。現在、国会における与党 AKP 議席数は 312 議席。（8月 29 日付 TRT インターネット版、9月 1 日付 HT 紙 16 面）

### 【トルコから見たシリア情勢】

#### ● ISIL の非公式拠点がいstanbulに(独第一公共放送局 ARD 報道)

独第一公共放送局 ARD は、欧州対外活動庁治安専門家筋からの情報として、ISIL の非公式拠点がイstanbul旧市街西部のファーティヒ地区に所在すると報じた。同拠点の機能は、欧州地域からシリアに渡り ISIL に合流予定の者に支度金として最大約 400 ユーロを提供し、トルコを介してシリア入国支援を行うこと。同拠点にて ISIL は、欧州諸国からの戦闘員志願者に思想教育を実施し先鋭化させた上で、軍事訓練へと移行。同一情報源によれば、欧州諸国から約 2000 名が ISIL に合流しているとされる。独 ARD は、シリアやイラクで戦闘経験を積んだ者が欧州諸国に帰国してテロ活動を行うことが欧州諸国の脅威となっていると報じた。（8月 30 日付 TZ 紙 4 面）

#### ● 150m 先の隣国は「イスラーム国」



（7月 1 日付 Haberler.com インターネット版）

BBC のイアン・パネル記者は、トルコのシリア国境付近からのニュースにおいて、（トルコの南東部）ハタイ県側から（シリア側に）見えた「イスラーム国」(IS) の巨大な旗を撮影。同記者は、「ここは NATO の最南にあたるトルコであり、ここからほんの 150m 先には「イスラーム国」がある」と報道。（9月 3 日付 M 紙 20 面）

#### ● トルコ、ISIL 戦闘員出身数比率では第 11 位



（8月 2 日付 The Economist インターネット版）

英エコノミスト紙によると、他国からシリアに向かう戦闘員（ジハード）数の順位は、出身国の人口比率から見た場合、シリアの近隣諸国としては、トルコが 11 番目に参加者が多く（400 名）、ヨルダンが最多（2089 名）、チュニ

ジアは 2 番目（3000 名）。シリアから遠く離れた国としては、ベルギーが最多国（250 名）、デンマークは 2 番目（100 名）、フランスは 3 番目（700 名）、英国は 9 番目（400 名）。Soufan Group のデータでは 5 月末までに外国人戦闘員数は 1 万 2000 名に上る。（9月 3 日付 M 紙 20 面）

#### ●【参考論調】 ISIL の後には？

許可を得ていないため名前は挙げないが、シリアやイラクからは 1 万 km 程離れた国の（トルコ）大使の言葉は次の通りだった。

「トルコからの ISIL 参加者数は 100 名を超え、これが続くことに対する懸念がある。我々は、ノルウェーにおいてある精神病患者が若者を殺害した際に一体どういうことが起きるのか、同様に英国や米国においても常軌を逸した人物が何をしてしまうかについては学校における事件を通じて分かっている。今、（シリア国内に戦闘員として入った）何百人という人々が国に戻るだろう。ISIL と闘うだけでは問題は解決しない。本当の問題というのは、戦闘に参加した若者たちが自国に戻り、過激度を高め、国内治安問題を生み出し始めることで表面化するだろう。（問題を解決するためにどのような対応策があるかとの問いに対しては）本当は我々が出来ることはない。欧州諸国は、（戦闘員としてシリア国内に入国する際の）通過国となっているトルコとともに国境管理協力を行うべきである。具体的には、900km 以上の国境線がシリアとイラクの国境線に接している中、人々の越境が管理される必要がある。また、繊細な問題ではあるが、（戦闘員の中には）査証取得の上トルコに入国する人々も含まれている。このバランスを上手く利用する必要があって、最も良いのは、疑わしい人物に関する情報をトルコ当局に渡してくれるのであれば、より生産的な協力体制となる。」（2014 年 9 月 4 日付 HT 紙 Muharrem Sarikaya 氏）

#### ● AKP スポークスマン、税関・貿易相の変更に驚き

フセイン・チェリック AKP 副党首兼スポークスマンは、新閣僚メンバーに関して、「新任メンバーに驚くことはないが、前内閣の税関・貿易相であったハヤティ・ヤズジュ大臣が交代したことに驚いた。どのような議論があったのか内情は分からないが、同前大臣は大変真剣に取り組み、実践的解決方法をとるビジネスマンに近い人物であった。」旨コメント。（8月 29 日付 P 紙インターネット版）

#### ●【参考論調】 AKP の対 EU 新戦略

元 EU 大臣のバウシュ氏は EU 懐疑主義者であり、彼の仕事は EU 諸国を回って EU 嫌いの AKP 支持者らにメッセージを伝えることであった。バウシュ氏が EU 諸国から嫌われているのは公然の秘密であった。AKP 支持者らにとってトルコの EU 加盟問題は関心が低かったことから、エルドアン大統領（当時の首相）はわざとバウシュ氏を EU 大臣を務めさせていた。ダーヴトオール前外相も EU 加盟には熱心ではなく、ムスリム同胞団により関心を寄せていた。

ダーヴトオール新首相は EU 大臣にヴォルカン・ボズクル氏を、外務大臣にはメヴリュット・チャヴシュオール氏を任命した。彼らはトルコ・EU 関係に関しては、バウシュ元 EU 大臣やダーヴトオール前外相とは正反対の立場で、EU 諸国からは好かれている。これは AKP のとってきた反 EU 政策の変化を表しているのだろうか。AKP がさらに権威主義的で、日々墮落していく事実を見ていると、AKP は法の支配、透明性、説明責任、報道の自由等についてうるさい超国家パワー（EU）を必要としているのだろうか。もちろん否である。

そこで議題は、エルドアン大統領とダーヴトオール首相の AKP はなぜ、ボズクル EU 大臣とチャヴシュオール外相

を必要としているのだろうか、となる。答えは無論のこと「経済」である。これはエルドアン大統領が嫌っているババジャン氏を副首相に任命し、首相顧問のバウシュ氏にババジャン氏を「国家内国家（ギュレン系を指す）のメンバー」と呼ばせた理由と同じである。経済は脆い状況にあるため、エルドアン大統領は2015年の総選挙までにババジャン副首相を今のポストに就かせておく必要がある。

ババジャン副首相が述べたように、トルコは今後の増大する競争市場において年間2000億ドルを借りる必要がある。AKPの黄金時代と違って、現在は金銭は国際市場から入手できず、米国は金利を上げており、つまり資金調達により困難になる。従って、トルコは資金を調達するために多くの金利を払うことになる。これにより信用貸付格付にもマイナスの影響が出、トルコが金利を上げざるを得ない状況になる。外国直接投資もトルコの中東諸国への輸出も減少しており、イデオロギーではなく経済を理由にAKPを支持している人々を満足させるのは難しくなるといふ訳だ。もしAKPが2015年総選挙において50%得票できなければ、国会の330議席を維持するのは難しく、プーチン風の大統領体制を如何なる掣肘もなく導入することは出来なくなるだろう。さらに、AKPの得票が42%以下となれば、恐らく党としてのパワーを失うだろう。

要するに、今AKPが行っていることは、2002～2011年にかけてAKPが行っていたことである。つまり、EUの価値観、コペンハーゲン基準、法の支配、透明性、説明責任に傾注するという真剣な思いなく、単に戦術的な動きとしてEU加盟プロセスを利用することだ。EU加盟に向けたプロセス再開は市場に対する良いサインとなり、トルコは経済危機からは身を遠ざけていられるだろうが、トルコを本当の意味で民主化することにならないだろう。AKPは（総選挙前の）2015年5月までこの状態を維持する必要があり、総選挙の数ヶ月間は、AKPは支持者らを喜ばすために、反西欧主義、陰謀説等々を元通り持ち出すだろう。（9月4日付TZ紙15面、Ihsan Yilmaz氏）

#### ●【参考論調】新政権の外交政策

(1) 新政権によって発表された外交政策上、唯一のサプライズは、EU加盟を強調し重視していることである。EU加盟問題は、エルドアン大統領（当時首相）が上海協力機構を代替案として言及するなど、近年ではあたかも政府の関心ではなくなったかのようであった。しかし、現在は外交政策としてトルコ共和国建国100周年を迎える2023年までにEU加盟を実現させる決意がある旨明確にしている。

(2) 新政府のイラク及びシリア政策を巡り、ISILによりトルコ人49名が人質にとられている事件に関して全く何の言及もない点は驚きである。ISILの活動についてトルコ政府の考えを示唆する言及がないのは、大きな欠如である。（9月3日付M紙20面、Sami Kohen氏）

#### ●【トルコ・アゼルバイジャン関係】

##### ●トルコ大統領、アゼルバイジャン訪問

(1) エルドアン大統領は、3日、アゼルバイジャンのパクーを訪問し、アリエフ・アゼルバイジャン大統領と会談を実施。エネルギー協力、カラバフ問題等が協議され、アゼルバイジャン国内のギュレン系学校閉鎖に関しても議題に挙がった模様。

(2) アルメニアとの関係に関し、エルドアン大統領は、「アゼルバイジャン及びアルメニア間の問題が解決するのであれば、トルコ・アルメニア間の問題も解決することになるが、アゼルバイジャン及びアルメニア間の問題が解決しない間は、トルコ・アルメニア間の問題も同様に解決しない。」旨述べた。アリエフ大統領は、1915年のアルメニア

人虐殺に関し、アゼルバイジャンの大使及び在外アゼルバイジャン人は、トルコとともに努力していると述べた。（9月4日付HT紙18面）

#### 【その他】

##### ●新設施設は大統領府に、旧施設は首相府へ

エルドアン大統領はアゼルバイジャン出発前に、「新設の施設は首相によって使用されるのか、あるいは大統領によって使用されるのか」との記者による問いに対して、「これまで歴代大統領が居住した場所に暫くは住み続けるが、その後、大統領府として新施設への移転を計画しており、現在大統領府として使用されている施設及び住居は、首相が使用する形で考えている。」旨回答。（9月3日付H紙21面）

##### ●新大統領、海軍大学卒業式に出席

8月31日、エルドアン大統領は（イスタンブール県東部の）トゥズラ所在の海軍大学卒業式に出席。同大統領はヘリコプターにて同式典会場に到着。今年の卒業者は少尉合計114名（内訳はトルコ人104名、アゼルバイジャン人4名、アルバニア人2名、カザフスタン人2名、トゥルクメニスタン人1名、北部キプロス出身者1名）。（9月1日付HT紙17面）

##### ●HDP党首、大統領就任式での拍手に対する批判

デミルタシュHDP共同党首は、自身がエルドアン大統領の就任式で立ち上がって拍手したことに対する批判の声に対して、「エルドアン大統領個人に対して拍手したわけではない、（同大統領を選んだ）国民52%の意志に対して感じた尊重の思いによるものである」旨述べた。（9月2日付Duzce Yerel Haberインターネット版）

##### ●不正汚職事件、不起訴判決

19日、クルチ憲法裁判所長官は、国会において開かれた「公正な年」レセプションで記者らの質問に応じ、昨年12月25日大規模汚職事件捜査に関する不起訴決定に関して、「こうした話題はコメントはしたくない。しかし、この汚職事件を追及するのは止めようとか司法に持ちこまないようにしようといった考えは決して許されない。もし汚職が行われたのであれば、それは最後まで調査される。」と述べた。（9月3日付H紙20面）

##### 【クルド問題・和平交渉プロセス】

##### ●和平プロセス担当関係者、ロードマップを議論



##### ŞEMANIN EN TEPEŞİNDE DAVUTOĞLU VAR

3日、ダーヴトオール首相の下で和平プロセスに取り組む新たな関係者らが会合を開き、今後のロードマップに関して3時間にわたる議論を行った。アルンチ副首相、アクドアン副首相、ババジャン副首相、アラ内相、ボズダー法相、クルトウルムシュ副首相、フィダンMIT長官、AKP会派代表代理ウナル議員、ファフリ・カスルガ首相府次官、アリ・サルカヤ首相顧問が出席。遅くとも10月初めまでにロー

ドマップの確定作業が行われる見込み。(9月4日付 HT 紙 19面)

## 軍事

### 【PKK 関連】

#### ●参謀総長、和平交渉の情報持ち合わせていない

8月30日、大統領公邸において開催された戦勝記念日レセプションに参加したオゼル参謀総長は、記者からの質問に答え、PKKとの和平交渉について何ら情報を持ち合わせていないと述べた。(9月1日付 HD 紙1面)

#### ●参謀総長、首相と和平交渉について会談

9月3日、ダーヴトオール首相とオゼル参謀総長は2時間に及ぶ会談を実施し、PKKとの和平交渉に関し、今後は軍も協力して対応することが確認された模様。(9月4日付 C 紙インターネット版)

#### ●PKK 女性構成員による誘拐

東部シュルナック県グチュルコナックにおいて、PKK 女性構成員4名により、市民4名が連れ去られた模様。(9月2日付 C 紙8面)

#### ●PKK によるトルコ所在 ISIL 拠点襲撃は政府の脆弱性を現している

関係筋によると、8月末、クルディスタン共同体同盟(KCK: PKKの都市組織)の下部組織である革命青年運動(YDG-H)がイスタンブール大市ヨーロッパ側バシヤクシェヒル市に所在するISILの秘匿拠点を襲撃し、熟練戦闘員を殺害したと主張している。YDG-HのTwitterによると、「ヒクメト」という名の戦闘員が殺害されたと記載されている。また、同Twitterでは、9月1日、YDG-Hの「警備隊」がイスタンブール大市シリ市オクメイダヌ地区において、薬物が売買されていたとされる喫茶店への攻撃を実施したと記載されている。

PKK 専門家らは、数十年におよぶクルド問題を解決しようとするこの和平プロセスを契機にPKKと協力した勢力が同事件を引き起こしていると政府に警告し、こうしてPKKが特定の場所を攻撃することによって、政府側の忍耐力を見定めているとも主張。また、国の治安当局の力が弱まった際、特定のテロリスト・グループがゲームの主要プレーヤーとなることができると警告している。

最高裁判所アフメット・ギュンデル元検事は、和平プロセスが秘密主義の下で実行されている点を問題とし、現在の状況は国のためには受け入れがたいと述べた。ネジデット・オゼル軍参謀総長は、和平プロセスについて軍と情報共有しない政府を批判している。軍法裁判官ウミット・カラダシュ判事は、トルコの外交政策は国を危険にさらしており、6月にISILにより人質とされたモースル総領事館職員49名がまだISILの手中にあるためISILに対する対応を実行できない状態となっていると述べた。

パフチェシヒル大学エルジャン・チトゥリオール教授(PKK 専門家)は、PKKの最近の活動は、和平プロセスの進展をテストする試みであり、オジャラン首領が「民主主義自治体」という言葉を使用するのは、自治区を構築するパートナーを見つけるための試みだと主張。

専門家が注目するもう一つのポイントは、ギュレン運動派と見られる警察官が次々に更迭されることに伴い、諜報等の経験豊かな警察官及び警察幹部が存在しなくなり、テロ集団の活動をコントロールする力が弱められたことである。PKKが治安部隊としてISILを攻撃するという状況は、その国の崩壊を意味している。国が国の安全をコントロールする力を失うとき、そのようなテロリスト組織の活動は

より活発になるだろう。(9月3日付 TZ 紙1面)

### 【一般】

#### ●タバコ等密輸企図者拘束

(1)8月30日、南東部キリス県シリア国境沿のデリオスマン村において、巡回中のジャンダルマ(軍警察)がタバコの密輸企図者7名を発見。格闘戦となったが、ジャンダルマは敗北、30分後にジャンダルマ応援勢力により同7名は拘束された。(9月2日付 C 紙8面)

(2)9月2日、キリス県トウルジャ村において、密輸企図者数名がジャンダルマの停止警告に反応し銃を使用、銃撃戦となり、トルコ人密輸企図者1名死亡、シリア人密輸企図者1名が負傷した。(9月3日付 C 紙8面)

#### ●F-16 女性パイロット機墜落

9月2日17時10分頃、東部ディヤルバクル県において訓練飛行中のF-16戦闘機1機のエンジンに火災が発生し墜落。操縦士は、トルコ空軍に4名のみ在籍する女性F-16操縦士の一人でF-16による大西洋横断を女性パイロットとしては世界初の成功者であり、墜落前に脱出して無事だった。(9月3日付 C 紙9面)

#### ●イラク空爆米軍機バドマン県に緊急着陸

8月21日、イラクへの空爆を予定しドバイを離陸した米軍F-18戦闘機1機が、油圧システムのトラブルにより東部バドマン県所在の空港へ緊急着陸した。同空港において修理が行われ、9月2日、ドバイへ向け離陸した。(9月3日付 C 紙9面)

## 経済

### ●中央銀行の動き

27日、中央銀行は金融政策委員会を開催し、翌日物貸出金利を12%から11.25%に引き下げた。主要政策金利の1週間物レポ金利は8.25%に、翌日物借入金利は7.5%にそれぞれ据え置いた。なお、市場では、翌日物貸出金利も含め、主要金利に変更はないとの予想が優勢であった。中央銀行は、インフレ期待や価格動向などインフレに影響する要因を注意深く監視し、インフレ見通しが大きく改善するまで、イールドカーブを平坦に保ちつつ、金融引き締め姿勢を維持するとしている。(8月27日、28日付 HD 紙10面)

### ●国内需要低下

現在のインフレ率を考慮すると、急速に金利を引き下げることにはできず、信用格付機関も現状での金利引下げは市場の信用を下げるとしている。一方で、住宅販売、白物家電のような家庭用品、自動車関連の売り上げ減少に見られる景気停滞が、中央銀行に金利引下げを迫っており、2015年の総選挙までこうした圧力が強く続くと言える。

(1)住宅販売：本年7月の住宅販売戸数は、対前年同期比20%減の8万5000戸で、住宅ローンによる購入は33%減少。本年7ヵ月間における累計販売戸数も減少し、住宅ローンによる販売が、対前年同期比48%減少と顕著。

### (2)自動車関連

本年6月の販売台数は、4万7000台と対前年同月比19%減(昨年6月の販売台数は5万8000台以上)。昨年と本年上半期の販売台数を比較すると、本年は22万6000台で、対前年同期比30%減少しており、減少幅はより顕著。

### (3)家庭用品

本年7ヵ月における冷蔵庫、洗濯機、オーブン等の白物家電の販売数は、対前年同期比7%減少(国内における冷蔵庫の販売数は12%減、洗濯機は6%減)。(9月1日付 HD 紙10面)

### ●ババジャン副首相が経済担当として留任する見通し

ダーヴトオール首相率いる新内閣で、AKP の経済部門のトップであるヌマン・クルトウルムシュ副党首が副首相に任命されたが、30日、政府高官は、ババジャン副首相が新内閣の下でも、経済チームの責任者に留まるとの見解を示した。また、エルドアン大統領は、イーイト・ブルット (Yigit Bulut) 前首相顧問 (経済担当) を大統領の経済担当首席顧問に指名。(9月1日付HD紙10面)

#### ●高インフレに対するババジャン副首相の見解

3日、ババジャン副首相は、今年末のインフレ率が当初の予測数値よりも一定程度高い状態となり、中央銀行の7.6%という予測を上回る可能性はあるが、インフレ率が二桁になる可能性はないとの考えを示した。また、インフレ率が高くなるのは、干ばつや雹等の悪天候に起因する農作物の生産量減少による食品価格の高騰によるもので、中央銀行の金融政策とは無関係であるとした。(9月3日付HD紙インターネット版)

#### ●政府は成長潜在力強化を継続

1日、ダーヴトオール首相は、政府は、インフレ克服に焦点を当てている金融政策と同時にトルコの成長潜在力を強化する政策を継続していくと表明。また、中央銀行の独立性を強調した。(9月2日付HD紙10面)

#### ●世界経済フォーラム報告

3日、スイスの経済研究機関である世界経済フォーラム (WEF) が、世界各国・地域のビジネス環境や政府の効率性、教育水準などの指標を経営者からの聞き取りや統計から指数化し、各国・地域の競争力を順位にした2014年版の報告書を発表。1位がスイス、2位がシンガポール (昨年より順位に変更なし)。日本は6位で、昨年より順位を3つ上げた。一方、トルコは、45位。中国がBRICS経済ではトップの28位。(9月3日付HD紙11面)

#### ●8月のインフレ率は9.5%と予想以上

3日、トルコ統計庁が発表した8月のインフレ率は9.54%で、前月から0.09%上昇。専門家らは、0.03%から0.1%下落すると予測していた。基本支出グループ中、月間ベースで最も高い上昇率を示したのは、レストラン・ホテル・グループの1.64%。飲食料品グループが0.89%、教育が0.75%、その他商品・サービスが0.65%、娯楽・文化が0.59%とそれぞれ上昇。(9月4日付HD紙10面)

#### ●銀行部門の借入がトルコの対外債務を増加させている：フィッチ

3日、フィッチの発表によると、2008年から2014年上半期までの民間銀行による借入が1640億ドルと約3倍に増加し、トルコの対外債務の71%を占めており、近年のトルコの対外債務の主な要因は、銀行部門の借入増加であるとされた。また、フィッチによると、同期間で外貨建て短期対外債務が4倍以上、長期対外債務が2倍になっている。(9月4日付HD紙10面)

#### ●8月の自動車販売台数減少

トルコ自動車販売協会が公表した8月の自動車販売台数は、6万199台で、対前年同月比7.45%減少。1月から8月の累計販売台数は、40万6967台で、対前年同期比21.5%減少している。リラ安相場、ローン金利の上昇、ローン規制、高い特別消費税 (OTV) 等が販売台数に影響を及ぼした。一方、為替相場の安定や大統領選挙後の政治的緊張緩和により、商用車の販売台数で回復傾向が見られ、65万台から70万台としていた年間販売台数見込みを67万5000台から72万5000台へと3.6%から3.8%上方修正を行っている。(9月4日付HD紙11面)

#### ●女性の所得は男性の3分の1

国連開発計画 (UNDP) が発表したジェンダー開発指数 (GDI)

によるトルコの女性の国民総所得 (GNI) は8813ドルで、男性GNIの2万8318ドルの3分の1、調査対象となっている148カ国中118位。トルコに関しては、女性の教育等複数の開発指数が脆弱。(9月4日付HD紙11面)

## 治安

### 【大規模汚職事件関連】

#### ●汚職事件容疑者は不起訴。他方、警察官32名は国家転覆企図容疑で身柄拘束

イスタンブール県検察庁は大規模汚職事件の容疑者96名 (エルドアン大統領の息子ビラル・エルドアン氏等が含まれていた) について、嫌疑不十分として起訴を見送った。一方、大規模汚職事件捜査関係警察官、16県警察官33名について、違法盗聴と国家転覆企図容疑で逮捕状を発給。警察官32名の身柄が拘束された。身柄が拘束された警察官の内14名は上級幹部 (イスタンブール県警元経済犯罪対策課長ら) であった。

身柄が拘束された警察官らは、連行される際に「SIFIR (トルコ語で「ゼロ」転じて「シロ」の意味)」と書かれたTシャツを着用し抗議の意を示した。(9月2日付HD紙4面)



(HD紙インターネット版より)

### 【テロ関係】

#### ●ISILに誘拐された人質は生きている

アルンチ副首相は、6月11日にイラク北部モスルで誘拐されたトルコ総領事館員49名 (46名トルコ人) の身の安全は確認できており、生存しているが、「特別の状況」により、解放には至っていないとのこと。

在トルコ英国大使は「NATO加盟国のISILに対する認識はトルコの見方と違っておらず、彼らをテロリストとして認識しており、共同して対応する。」と発表。メルケル独首相は、ISILを牽制するために北イラクのクルド人武装勢力に対する武器供給予定である旨発表。(9月2日付HD紙9面)

#### ●オバマ大統領がISILとの戦闘を示唆

米国オバマ大統領は、2日に、ISILが米国人ジャーナリストとして2人目の犠牲者となるスティーブン・ソトロフ氏と思われる者の斬首動画を配信したことを受け、「ISILの脅威はイラクのみならず、米国にとっても脅威。米国はISILと戦う準備がある。ISILと戦うためにはスンニ派近隣諸国を含めた諸外国との連携が必要である。」と語り、ISILとの戦闘を示唆。(9月3日付HD紙1面)

#### ●TKP/MLが水力発電施設を爆破

2日、東部トウンジェリ県オヴァジク市内の水力発電所に共産系左翼団体TKP/MLのメンバー数人が侵入し、コントロールルームに爆弾30kgを設置の上爆発させた。同爆発により、発電システムが故障するなどの被害発生。(9月3日付C紙8面)

### 【PKK関係】

#### ●KCKバユック議長、HDPデミルタシュ党首がPKK支援を

**要請**

KCK 議長、HDP 代表はそれぞれ、ISIL と戦闘を繰り広げているシリア及び北イラクのクルド人組織に対する武器供与等の支援要請を行っている。

KCK 議長は、米国、欧州諸国に対し、支援を要請する声明を発表し、HDP 党首は、トルコ政府が ISIL と戦う PKK に対して武器を供与すべきだと主張し、PKK に平和が訪れれば、PKK は自ら武器を放棄し、トルコ政府に対して武器を向けることはないと主張。(9月3日付HD紙3面)

**【デモ関係】****●抗議者を撃った警察官に禁錮4年10月**

昨年6月1日にアンカラでゲジ公園関連デモに参加中、警官の発砲を受けて死亡したエセム・サルシュリュク氏事件の裁判で、アンカラ裁判所は発砲した警官に禁錮4年10月の判決を下した。検事は禁錮26～33年を求刑していたが、裁判官は禁錮7年9月が妥当とし、情状酌量の上、禁錮4年10月に減刑した。3日、判決を受け、数名の抗議者がカドキョイでデモ集会を実施。(9月4日付HD紙1面等)

**【一般】****●エユップ市民が夜警団を結成**

最近、イスタンブール大市エユップ市内で、深夜の泥棒被害が急増していることから、市民が夜警団を結成し、ナイフや棒を所持して自ら警戒活動に当たっている。市民らは、泥棒が多発している地区には街路灯が少ないことから夜間の泥棒が増加したと主張し、行政当局に改善を求めている。(8月29日付HD紙2面)



(HD紙インターネット版より)

**●トルコにヤズィディー(ゾロアスター教系住民)難民1万6000人に**

東部シュルナク県知事の発表によると、ISIL の戦闘から逃れるため、北イラクから東部シュルナク県を中心にトルコに避難したヤズィディー難民数は1万6000人に上る。ヤズィディー難民はトルコ国内の学校や支援者宅に寝泊まりし、トルコ政府から、医療提供と食事を提供されている。同政府は、このままでは、今後さらに約4万人のヤズィディー難民がトルコに流入すると試算しており、北イラクのザクホ(Zakho)地区にヤズィディー難民のための難民キャンプを建設中。(9月1日付HD紙9面)

**●もし、ドイツがスパイ活動をしているのなら仕返す**

独 Der Spiegel 紙が独連邦諜報局 BND がトルコ高官を盗聴していたと報道した件に関し、アラ内相は独内相と8月30日に会談。その後の共同記者会見において、アラ内相は「(独政府による盗聴は)受け入れられない行為であり、事実であればトルコもドイツを盗聴する。」と発言。独内相は「この件は、お互いの情報機関で解決する。情報機関の活動に関する内容は、公にできない。」と発言。今後、MIT と BND の両長官で話し合いが持たれる予定。(9月1日付HD紙3面)

**●トルコ政府が米国にスパイ活動を終了するように要請**

トルコ外務省は、米国がトルコ高官に対するスパイ活動を数年に渡り行っているとされる疑惑について、事実関係を確認するため、在トルコの米国臨時代理大使を召還した。

(9月2日付HD紙1面)

**●盗聴による損害はない**

MIT 当局筋によると、独、米国による盗聴によりトルコが被った損害はないとされる。トルコでは、政府高官の間での重要事項については、直接話し合われているため、(携帯電話、電子メール等に対する)電磁的な盗聴によって機密情報が漏洩する等の被害を被ることはないとのこと。(9月3日付HD紙1面)

**●警察官が飛び降りようとする男性を説得する姿を自ら写真撮影**

1日、ボスポラス第1大橋から自殺しようとするトルコ人男性(35歳)に対し、現場に駆けつけた警察官が、思いとどまるように同人を説得する際に、自らの姿と男性の姿を携帯電話で撮影した。男性はその後、投身自殺したが、この画像が、ソーシャルメディアに公開され、物議を醸し出している。検事当局はこの警察官に対する調査を行うと発表した。(9月2日付HD紙2面)



(HD紙インターネット版より)

**●歩道橋崩落により死亡者1名、負傷者4名**

イスタンブール市内アヴジュラル地区の高速道路(E5)を走行中の液状ブドウ糖を運搬中のタンク搭載トラックが、タンクを上げたまま走行したため、タンク部分が歩道橋に衝突。事故の衝撃で歩道橋が崩落し、死亡者1名、負傷者4名が出る惨事となった。専門家によれば、トラックは、タンクを上げた状態では時速10kmを越えて走行してはならない規則が2010年に定められ、時速10kmを越えて走行すれば、警報音が鳴るシステムを取り付けなければならないこととなっている。事故を起こしたトラックは、このシステムを動作させていなかったものと見られている。また、別の専門家からは、事故の衝撃で崩落した歩道橋の強度について問題視する声も上がっている。(9月3日付HD紙2面等)



(HD紙インターネット版より)

**社会****●ボスポラス海峡、エミルガン地区で8メートル幅が狭ま**

る

イスタンブール大市によると、エミルガン地区の海岸線埋め立て工事の完了が近い。サイクリング、ウォーキング、釣りなどができるスペースの他、116 台分の駐車場も設けられる。2015 年に完了する予定のこのプロジェクトで、ボスポラス海峡の幅は 8m 狭まることになる。

工事は今年の 3 月にエミルガンの海岸線 700m で着工、完成すると海岸線の幅は 8m に広がる。埋め立て地の 2m 分はサイクリングコースに充てられ、1,550 m<sup>2</sup>は緑地になる予定。釣りに 30m に渡るプラットフォームが 3ヶ所設けられる。(9月1日付 HT 紙 21 面)

●食料・農業・畜産省から漁師への警告

4ヶ月半の禁漁が終わった 9月1日の晩、漁師たちは豊漁を願い、待ちわびたように漁に出た。食料・農業・畜産省は水産資源保護のため、漁業に関する細かいルールを設定している。同省は海上、港、船上、市場、冷蔵場所、小売店など水産資源が取引されるあらゆる場所で検査を実施する。ルールに違反すると魚は没収され罰金が科せられる。また、同省は漁船免許のコントロールも行う。(9月2日付 HT 紙 7 面)

●(イスタンブール大市ファーティヒ市の)クンカプの魚市場で魚の価格が下がる

クンカプの魚市場では、禁漁期間終了後二日目に魚の価格が下落した。例えばカツオは 15TL/kg から 10TL/kg に。魚市場の関係者は今シーズンの豊漁を予想。この時期はイワシ、アジが旬。(9月3日付 HT 紙 23 面)

(代表的な魚の値段)

魚種	イワシ	タイ	アジ	サーモン	スズキ	イボガレイ
価格 TL/kg	10	35	17	40	25	120

●ダムの残量は 145 日分

イスタンブール大市の発表によると、イスタンブールのダムには現在 145 日分の水が残っている。同市長は市民に対し、水の無駄遣いを避けるよう訴えた。(9月3日付 HT 紙 23 面)

●第3大橋の橋脚が 285m に達する

コイラズキョイーガリプチェ間に建設中の第3大橋の橋脚は現在高さ 285m にまで達した。年末までに高さ 320m を完成させ、その後、ケーブル設置工事を開始する。橋につながる道路区画 400 ヘクタールは樹木が伐採されることになるが、代わりに別の場所 1,400 ヘクタールに新たに植林する。第3大橋は完成すると幅 59m、長さ 2,164m になり、世界一幅が広く、また車道、鉄道共用の橋としては世界一長い橋になる。鉄道はエディルネーイズミット間の乗客を運び、メトロやマルマライにも接続する。民間資金で建設している第3大橋は、一定期間、管理を民間会社が担い、その後国に移管される予定。(9月4日付 HT 紙 22 面)

注：本文中の略語の正式名称は以下の通りです。

略語	正式名称	略語	正式名称
AFAD	首相府緊急災害事態対応総局	ÖSB	PKKの防衛隊
AKP	公正発展党(現与党)	OIB	首相府民営化管理庁
BDDK	銀行監督庁	PKK	クルディスタン労働党
BDP	平和民主主義党(クルド政党)	PYD	シリア民主主義連合党
BOT	建設・運営・譲渡方式	RP	福祉党
CHP	共和人民党(最大野党)	RTÜK	ラジオ・テレビ高等機構
DEP	民主党	SNC	シリア国民評議会
DHKP/C	革命人民解放党/戦線	SPK	証券取引監査院
DHMI	国家航空局	SSM	防衛産業庁
DISK	先進労働組合連合	TBB	トルコ弁護士協会/トルコ銀行協会
DTK	民主主義社会評議会	TCDD	トルコ国鉄
DTP	民主社会党	TDHB	トルコ歯科医師会
DYP	正道党	TESK	トルコ商工業連合
EDAM	経済外交政策センター	THY	ターキッシュ・エアラインズ
EPDK	エネルギー市場監督庁	TİKKO	トルコ労働者・農民解放軍
HDP	人民民主党(クルド政党)	TMMOB	トルコ・エンジニア・建築家協議連盟
HSYK	裁判官・検事高等委員会	TOKİ	トルコ集合住宅開発局
İDO	イスタンブール海上フェリー会社	TOMA	放水装甲車
İHH	人権・自由・人道支援団体	TPAO	トルコ石油公園
İKSV	イスタンブール文化芸術財団	TTB	トルコ医師会
İSO	イスタンブール産業会議所	TÜBİTAK	トルコ科学技術研究機構
İşİD	イラク・レバントのイスラム国(アルカイダ系)	TÜİK	トルコ統計庁
İTO	イスタンブール商工会議所	TÜPRAS	トルコ石油精製会社
KCK	クルディスタン共同体同盟(PKK系)	TÜSİAD	トルコ産業・実業家協会
KESK	公務員労働組合連合	TÜVİD	トルコ投資家関係協会
KRG	北イラク政府	YÖK	トルコ高等教育評議会
MHP	民族主義者行動党(野党)	YSK	選挙高等委員会
MIT	国家諜報機関		

※掲載内容は、トルコの新聞報道をまとめたものです。

注：本文中のニュースソースの略称は以下の通りです。

トルコ語新聞		英字新聞		通信社	
Akşam	A	Economist	EC	Anadolu News Agency	AA
Cumhuriyet	C	Herald Tribune	IHE	Agence France Presse	AFP
Haberturk	HT	Hürriyet Daily News	HDN	Cihan News Agency	CA
Hürriyet	H	Today's Zaman	TZ	Doğan News Agency	DA
Milliyet	M			Ihtis News Agency	IA
Posta	P			Interpress	IP
Radikal	R				
Sabah	S				
Taraf	T				
Vatan	V				
Zaman	Z				

**在イスタンブール日本国総領事館**

電話：0212-317-4600

FAX：0212-317-4604

E-Mail: [istanbulweekly@it.mofa.go.jp](mailto:istanbulweekly@it.mofa.go.jp)

WEB: [http://www.istanbul.tr.emb-japan.go.jp/index\\_j.html](http://www.istanbul.tr.emb-japan.go.jp/index_j.html)

Facebook: <http://www.facebook.com/Japonya.Istanbul.Baskonsoloslugu>

- トルコに90日以上滞在される方は総領事館に在留届を提出願います。
- 新たに配信希望される方、あるいは今後の配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。  
[istanbulweekly@it.mofa.go.jp](mailto:istanbulweekly@it.mofa.go.jp)